|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| **学校経営推進費評価報告書（２年め）** |
| **標記について、下記のとおり提出します。** |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| **１．事業計画の概要** |  |  |  |
| **学校名** | 大阪府立寝屋川高等学校　全日制の課程 |
| **取り組む課題** | 生徒の希望する進路の実現・生徒の学力の充実 |
| **評価指標** | * 希望進路実現率向上：現役国公立大学合格者数３年後に130人（平成28年度81人）
* 大学センター試験における、全国平均に対する寝屋川高校生徒平均得点率を３年間で10％向上
* 生徒の授業満足度向上：強い肯定回答率50％以上

（平成28年度強い肯定35％、肯定52％、肯定以上計87％） |
| **計画名** | キー・コンピテンシー能力育成を念頭に置いた授業力向上計画～真善美の寝屋川高校は、1200人1200通りの伸びと自己実現を支援します！～ |
| **２．事業目標及び本年度の取組み** |  |  |  |
| **学校経営計画の****中期的目標** | １．学力を伸ばす（１） 組織的な授業研究の推進「考える力の育成」「双方向の授業」（２） 新たな教授方法や教材の開発、外部資源の活用（３） ３年間の学習目標と計画の策定「基礎基本の徹底」（４） 学力把握と分析による戦略的仕掛けと全体化（５） テンミニッツの推進とタブレットの活用（６） 講習、補習の計画的実施と内容の充実（７） ICTを活用したわかりやすい授業づくり（８） 学習指導要領や大学入試制度改革に向けた準備と対策２．21世紀型能力の育成（１） 主体的、能動的学習の確立「A.Lの進化」（２） 部活動の積極的推進「個と集団の力」（３） コミュニケーション能力の育成「プレゼンの機会設定」（４） 生徒主体のHR活動や行事の企画運営「自主自立」（５） 休まず続けることができる生徒の育成「粘り強い精神力」（６） 豊かな人権感覚と国際感覚を育む体験学習の推進「多様性」（７） 文化活動、読書活動の積極的推進（８） 社会貢献やボランティア活動、各種コンテストの推奨 |
| **事業目標** | 本校は現在キー・コンピテンシー能力育成を念頭に置いた授業改善を進め「真善美｣＊の学力向上をめざして取り組んでいるが、まだまだ生徒の伸びしろは十分ある。そこで、各HR教室に短焦点プロジェクターを設置し、ICTを活用した授業の充実を中心に更なる授業改善の取組みを進める。「視覚や聴覚に訴える」「板書時間の削減」等を実施することで、座学授業はもとより実験・実習を含むすべての授業で「生徒が自主的に取り組み活動する時間を確保する。それにより、様々な生徒主体の活動を取り入れる」ことで、生徒一人ひとりがそれぞれに「まだ見ぬ己（なりたい自分）」を発見し進路目標をしっかり持つことにより、学習に対する意識を高め**、**進路実現（現役合格）をかなえることを支援する。* 真善美： 寝屋川高校校訓知性（認識能力）、意志（実戦能力）、感性（審美能力）のそれぞれに応じる超越的対象
 |
| **整備した****設備・物品** | 短焦点プロジェクター（20台）（これに加え、学校の予算および後援会の支援により10台追加し、すべてのHR教室30室に設置し事業展開した。） |
| **取組みの****主担・実施者** | 「授業力向上PT」校長・教頭・首席・指導教諭・教務主任・進路指導主事・情報主担・学力向上委員会・プロジェクター活用得意者・プロジェクター活用不得意者* 「授業力向上PT」内に、ICT活用に特化したPTとして定時制も含めた「ICT委員会」を設置（主担：教頭、管理情報室、研究開発室、学年から１名、定時制から１名、ICTに不慣れな者1名）

実施者は全教職員 |
| **本年度の****取組内容** | * 今年度は、全ての教科で授業に活用。HR活動でもほとんどのクラスで活用した。
* 「ICT活用委員会」と「学力向上PT」が共催で活用についての検討を進めていく方向で計画していたが、今年度は課題を絞り、別々に進行した。ICT活用研修として、３回実施。９月はICTの活用方法に加え、本校生につけさせたい力とは何かを共有した研修を実施。12月は「勉強会」形式で本校教員５名による事例・実践発表を行った。３月にはパッケージ研修と絡めて授業力向上の観点からのICT活用研修とした。
* 先進的取組校への取材についても、２校に取材を行ったが、今後内容の共有方法について検討していく。
* 今後、「学力向上PT」を「学力向上推進委員会」に改編し、「ICT活用委員会」と連携した取組みを進めていく。また、授業アンケートの分析と情報共有し、次年度に向けた教科別活用の検討・決定につなげていく。
 |
| **成果の検証方法****と評価指標** | * 国公立大学「現役」合格者数：前年度比10人増（平成29年度80人）
* 大学入試センター試験の全国平均に対する寝屋校生得点率前年度比５％向上

（平成29年度：国語109％数学110％英語112％）* 学校教育自己診断の「授業のわかりやすさ」「授業での生徒の活動機会」の項目：強い肯定を前年比５％向上

（平成29年度：強い肯定31％、38％・肯定以上87％、87％）* 授業アンケート全体・項目⑤「教材の工夫」の向上（平成29年度：3.21、3.22）
 |
| **自己評価** | * 国公立大学「現役」合格者数　 90名（○）
* 大学入試センター試験の全国平均に対する寝屋校生得点率

 国語114％（○）、数学109％（△）、英語113％（△）* 学校教育自己診断の「授業のわかりやすさ」「授業での生徒の活動機会」の項目

強い肯定だけでなく、肯定以上も低下 82％、85％（△）* 授業アンケート全体・項目⑤「教材の工夫」 3.26、3.26（○）

教員がICT活用授業について計画的に取り入れている割合は、H28年度までは約３割であったが、この事業に取組むことで、約５割の教員が積極的に取り組むようになった。また、「ICT活用指導力調査」を見ても、学校全体として上昇している様子がうかがえた。全体としてICT活用については（◎）、授業評価や学校教育自己診断の結果については（△） |
| **次年度に向けて** | 次年度に向けて、パッケージ研修Ⅲを活用しながら、生徒により分かりやすい授業を実施することで、生徒の理解度を高め、学力向上をめざす。そのために、全教科において、生徒につけさせたい力、学校の理念を共有化し、全教員が参加する研究授業・研究協議等を推進していく。Wi-Fiの環境整備が必要である。 |